

## 大学生の飲茶(緑茶)習慣に関する調査研究

### 一飲物に対する嗜好の男女比較から一

○中原 満子\* 柴田 裕子\* 伊海 公子\*\* (\*神戸女学院大,\*\*奈良女大)

<目的>近年、多種多様な飲物は、自販機などで手軽に入手でき、摂取量も増加している。緑茶は、日本人の伝統的な日常の飲物として親しまれてきたが、含まれる成分のがんや高血圧の防止など様々な効果が最近話題となっている。本報は、大学生の日常の飲物に対する嗜好の男女比較から、緑茶についての利用頻度・意識・嗜好に関する調査結果を報告する。

<方法>\* 調査時期:1996年6月、調査票は配布時自計記入、即時に回収する方式 \*対象者:関西の私立D総合大学・K女子大学の男女学生各100名(計200名)、有効回収率は83.3%

\* 調査項目:基礎属性6項目8質問、飲物に関して10項目27質問 \*統計処理:SPSS 6.1J-PC98版 (\*緑茶とは、煎茶、番茶(ほうじ茶、玄米茶)、玉露、抹茶である)

<結果・考察>①日常よく飲む飲物には、男女に共通性はなく男性は麦茶・コーヒー、女性はウーロン茶・紅茶を好む。清涼飲料水・スポーツ飲料・炭酸飲料が有意に男性に飲まれ、自販機でも良く購入される。②緑茶は、男女共に9割以上が好きと回答し、煎茶・番茶が玉露・抹茶より日常よく飲まれるが、飲茶頻度は低い。含まれる栄養成分の認知は、男女共にカフェイン、VC、フラボノイドの順に高く、効果では、ガン防止、虫歯・口臭・歯周病、ダイエット、動脈硬化や心臓病、高血圧などの予防を男女共に6割以上が認識していた。③料理形態では、全体的に和風料理には緑茶、洋風料理にはコーヒーが好まれるが、中華や折衷料理には特定の飲物はない。④今でも緑茶をよく飲むので、今後も飲み続けたい意識は、男女共に緑茶・煎茶をよく飲む群と自販機で緑茶やウーロン茶を良く購入する群に高い。

結論、緑茶に対する嗜好やイメージの男女差は少ないが、行動での違いが顕著に認められた。